

備前市事務事業評価シート

事業の概要		事業開始年度		平成元年度～		根拠法令・例規等		備前市補助金等交付規則	
総合計画	大項目	基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり		問合先	担当課(室)	生涯学習課生涯学習係	
	中項目	基本施策	02	生きがいのあるまちづくり			職・氏名	係長 杉田和也	
	小項目	施策	02	青少年教育			電話	64-1841	
事務事業名		02		青少年活動支援事業		このシート作成に要した時間		1.0 時間	

事業の目的		Plan	
対象(誰・何に対して)	備前市在住・在勤で35歳以下の青少年及び団体の指導者		
目的(何のために)	青年協議会及びFOS少年団に補助金を交付し、その活動を支援することにより、ボランティア活動や市の行う事業への協力など、地域社会への寄与を目的とする。		
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	少年期の貴重なボランティア体験を行えるFOS少年団の活動継続と、青少年が自主活動を行う青年協議会の活動継続により、地域社会への積極的参画・参加による地域の活性化を図る。		

事業の実績		Do		
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度	
	備前市青年協議会補助事業	市内における青年の資質向上を図るとともに、地域社会の発展に寄与することを目的として各種事業を行う備前市連合青年協議会に対し、予算の範囲内において補助金を交付する。		
	備前市FOS少年団補助事業	市内の青少年が野外交歓大会や奉仕活動等を通じて、「友情・秩序・奉仕」の精神を養うとともに、心豊かでたくましい子どもの育成を図ることを目的とした各種事業を行う備前市内のFOS少年団に対し、予算の範囲内において補助金を交付する。		

決算額	事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	
	事業費	直接事業費	千円	567	515	443	
	必要人員	人件費	千円	0.32人	2,458	0.33人	2,675
	事業費	計	千円	3,025	3,202	3,118	
	財源	国県支出金	千円				
	受	益者負担	千円				
	繰	入金	千円				
	入	市債	千円				
	源	その他()	千円				
	受	益者負担比率	%	3,025	3,202	3,118	
結果指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績			
青年・FOS団(会)員数	説明	青年・FOS団(会)員数					
結果指標	量	160	149	118			
対前年比	%	-	93.1%	79.2%			
活動コスト	円	3,025,000	3,202,000	3,118,000			
単位当たりコスト	円	18,906	21,490	26,424			

事業の成果						(平成23年度事業)	
成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値		
青年・FOS団(会)員数	目標値(A)	170	170	160	120		
	実績値(B)	160	149	118	到達目標値		
	達成率(B/A)	94.12%	87.65%	73.75%	120		
成果指標設定の考え方・式や説明							
備前市連合青年協議会会員数+日生・吉永FOS団員数。少子化の影響もあり減少傾向が続いているが、会員数の維持に努めたい。							

事務事業の評価		該当する項目を から へ < 「コピー」して「貼り付け」してください >		Check	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市の関与の必要性	市の関与の必要性	市の関与の必要性	市の関与の必要性
	市民ニーズ	市民ニーズ	市民ニーズ	市民ニーズ	市民ニーズ
	コスト	コスト	コスト	コスト	コスト
有効性の評価	目的達成度	目的達成度	目的達成度	目的達成度	目的達成度
	市民参画度	市民参画度	市民参画度	市民参画度	市民参画度

進行年度(H24年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	青年協議会は団(会)員の減少が見受けられるが、成人式をはじめとする市の事業への協力、地域でのボランティア活動等に欠かせない存在でもあり、県下では減少・消滅する団(会)が多い中、備前市は活動を維持しており、若者の代表としての価値は高い。						

総合評価		Action	
FOS少年団は少年期におけるボランティア参加、青年協議会は青少年を対象とした事業を企画運営、または市主催行事へのボランティア参加など貢献度は高いものがある。課題は両団体とも少子化と青年層におけるニーズの多様化などにより、事業の継続に必要な会員の確保が困難な状況にあり、引き続き支援が必要な団体である。	総合評価	C	

平成25年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	青年協議会は活動継続の支援を図るが、事業に応じた予算配分とする。FOS少年団は県・備前地区(教育事務所)共に行政が積極的関与をしており、今度も地域公民館の応援をいただきながら運営を支援する。						

事業の意図する成果とつながらる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその留意目標

がらる成果指標に留意目標